

## 第9回 神戸市公立大学法人評価委員会 議事要録

1 日 時 平成23年11月25日(金) 10:00~12:10

2 場 所 神戸市役所1号館14階 1141会議室

### 3 出席者

○委員 庄垣内正弘委員長、岩原雅子委員、金児曉嗣委員、谷沢実佐子委員  
(欠席:井野瀬久美恵委員)

○外国語大学 船山理事長、大森理事、寺田経営企画室長、岸本経営企画グループ長ほか

○事務局(行財政局) 玉田行財政局長、藤原行政監察部長、黒田行政経営課長ほか

### 4 議 事

#### 議題1 これまでの振り返り

これまでの評価結果や外国語大学の現状と課題等について、事務局及び外国語大学から説明を行った。

#### 議題2 次期中期目標・中期計画について

議題1の説明を踏まえ、今後、神戸市が策定する次期中期目標及び、外国語大学が策定する次期中期計画について意見交換を行い、各委員から下記「5 次期中期目標・中期計画についての主な意見」のとおり意見が出された。

### 5 次期中期目標・中期計画についての主な意見

#### ○国際的に通用する人材の育成

◇入学者の過半数が「アドミッションポリシーを知っている」というのはすごいことだと思う。入学者は全国から来ており、その中では中部以西が多いが、どうしても関西、近畿の大学には、関東からあまり受験生が来ないものである。例えば大阪市大はもっと極端で、87%が関西、近畿、あとの10数%が中国・四国地方、九州地方である。それと比べても外大にはローカルを超えた受験生からのニーズがあると言える。

今般、設置基準あるいは学校教育法が一部以前と変わり、そのうちの一つが情報公開を義務付けるということである。外大は恐らく受験生への広報活動をかなり熱心に行っているから、このような良好な結果が出たのだと思うが、中教審が言っている情報公開というのは、例えば学生の留年率や退学率など出したくない部分も全部出せということである。場合によっては、教員の業績も匿名ではあるが、例えばイスパニア学科は論文を学会誌に何本出しているということまで要求する傾向がある。外大が加盟している公立大学協会では、情報公開を共通しようとして、ホームページにはこういう項目を入れるように、また、必ずホームページのトップに情報公開の項目を入れて、ワンクリックでそういうのが出てくるようにと言っている。そういう公立大学協会の動きにすぐ呼応してやるということが非常に大事である。全般にそういうことが言える。

◇重要なことであり、本当にその通りしてほしい。留年率も退学率も教員の業績も公開

すればよい。

⇒大学) 公立大学協会の件については、すでにそういう基準を考慮に入れてやっている。

義務付けられているものについては、対応している。

◇義務付けられていなくてもやればよい。聞かれるよりも、外大は全部出しているというほうが、受験生にとっても受験生の親にとってもよいと思う。

⇒大学) 我々としても、公立大学協会の基準は満たすという姿勢であり、さらに他の情報に関してもやるべきと考えている。

◇「国際的に通用する人材の育成」と掲げているが、それが実現できているかどうかを、何か検証したことがあるのか。

⇒大学) まさに我々もそれが知りたいところである。卒業生がどこまでやっているかという情報を、我々もほしい。しかし、同窓会のネットワークとも絡むが、卒業生の把握はなかなか難しいという現実がある。認識できる成果としては、卒業生の中に外務省の中国関係で首脳の通訳をする方がいるが、こういう方がいると個別に言えるのが現状である。

◇それは一つの考え方であって、街で文房具屋を経営していても「国際的に通用する人材」といえるかもしれない。

◇一つのアイデアとして、それをもう少しシステムティックに確認できる方法があればよいと思う。卒業生を把握するのは難しいということであるが、例えば卒業して3年後とかに、アンケートで大学での勉強や生活が今の自分の人生にどう役立っているかなどを答えてもらえばどうか。在学中では見えなかったことでも、ここがよかった、ここがこうだったらもっと役立っているといった、そういうフィードバックをして、大学のいろんなプログラムに活かすことができるとすばらしいと思う。

◇それは国際間で活躍する人がどれだけいるかであって、国際的に通用する人材であるかどうかは分からない。ただ、国際間で活躍する人がどれだけいるかということを知ることでもよいことだと思う。

◇それを目標として掲げている限りは、できているかどうかを知るべきでないか。

◇その問題はすごく大事で、かつ難しいことである。教育の成果を法人評価委員会は要求する。私も学長のときに散々言われた。貴方はこんな教育をしているが実証する成果を見せてくれと言うが、私はすごく反対して、大学というのは2年や3年で成果は出ない、大学4年間における成果は卒業論文とか、卒業実験とかで客観的に把握することはできるが、高等教育を受けたことによって、卒業して社会でどう活躍しているかという成果は、少なくとも10年ぐらいはかかるだろう、そういう要求は無理だと答えた。

そう答えた他方で、卒業後の動向を知りたいので同窓会組織を使って、そのような調査を試みようとしたことは何回かあるがすごく難しい。一つは個人情報の問題である。外大では、学生の就職先を100%把握していると書いてあったが、それはすごいことで

あり、他大学ではあり得ないことだと思う。それだけ学生と教職員との関係が密であると思う。どうしてそんなことを教えないといけないのかと反発する学生もいるし、また、3年、4年と経つとだんだん疎遠になってきて、大学又は同窓会からの事務連絡に対して返答しなくなる。そういうことで、把握できない。

しかし、私が学長のときには、同窓会組織がしっかりしていたので、同窓会組織の入会者だけに限れば、同窓会組織と協力してやれた。外大も第2期中期計画においては、そういうことの可能性も含めたプランを立ててもらえると、全国の大学で初めての成果を上げられるかもしれない。私も卒業生の追跡調査を行うという中期計画を書いたができなかった。

私はできないことまで書いて、C評価、D評価を受けた。例えば、経済学部と法学部を統合するとかである。これはできないと思っていたができたことは、2部の廃止である。そういうことでできたものもあるが、やれなかったこともたくさんある。全てA評価、S評価というのはよいとは思いますが、背伸びすることも大事だとノーベル賞をもらった先生も言っているので、第2期においてはかなり難しいことも考えて、目標、計画を立ててほしい。

◇世界中を走り回っている研究者がいるが、日本から一步も出たことがないけどきちんとされている研究者もいる。益川さんはほとんど日本から出たことがないが、ノーベル賞をもらっている。どちらが国際的に活躍しているのか分からない。これは難しい。

◇客観的に見て国際的に通用するかどうかよりも、自分自身がどう思っているかが大事である。外大を出て非常に役に立っている、満足できている人がどれぐらいいるかというほうが大切だと思う。仕事に役立っているのかどうかという声が掴めたらよいと思う。そういう人がアンバサダーになって、大学のPRをしていくというサイクルがあってほしい。

⇒大学) 言われることはよく分かるし、概念的な難しさも分かる。現実的な難しさもその通りだと思う。少なくとも、そういうアンケート調査ができる体制はできればと考えている。外大も名簿作りを同窓会にお願いしながら、できるだけ事務局でも作業を進めて、卒業生とのネットワークができるようにしたい。大学卒業時点で100%把握することも難しいというのが現実なので、卒業してしまうと難しいというのは言われる通りだと思う。

⇒大学) 同窓会でも名簿作りをやられているが、私どもの大学は比較的規模が小さく、イスパニア学科、ロシア学科、中国学科は1学年40~50名であり、その結びつきは非常に強い。だから全体の名簿はないが、イスパニア学科の卒業生の名簿とか、クラブ活動の名簿はあるようである。その辺の情報収集を、今後やっていきたい。

国際的に通用する人材かどうかについては、例えばTOEICの受験をここ何年かさせており、今年度については、1回は無料で受けてもよいという取り組みをしている。平均点を見ると600点台の後半であり、外国語大学として一般的な大学の中では高い水準ではないかと思っている。これはもともと外国語大学に入ってくる学生は、語学が非

常に好きだという面があるので、そういう結果になっている。そのモチベーションを卒業時まで持ち続けている学生が相当数いるだろうと考えている。ただ、残念ながらとても低い点の学生もいる。あまりよい情報ではないが、大学に入ってモチベーションが下がった学生もいるのだろうと思っている。我々としては、伸ばす人間は伸ばしたいと思っているが、一方で低い点数の学生をどう上げるかが、今後の課題である。

◇TOEIC が宣伝できるようなものであれば、平均がどれぐらいだと、あるいは国際コミュニケーションコースが非常に高いのであれば、それを表に出したらよい。TOEIC が低い学生を高くしようとしても、本人が高い点数を取りたいと思っているのであれば別だが、TOEIC が嫌いな学生もいるのだろう。いずれにせよ、TOEIC については、語学におけるところの国際的に通用する人材の一つの成果とはいえる。そういう形であれば出せる。

◇2009 年度に英米学科の定員を 120 人から 140 人に、中国学科を 40 人から 50 人にし、2 部英米学科を 120 人から 80 人にしているが、これは非常によいことだと思う。しかしこれから先、2 部英米学科を続けるのか、止めるのか。今から 5 年前なら廃止してしまえという雰囲気だったと思うが、世の中がまた変わった。過去に、外大の 2 部の出身で偉くなった方はたくさんいる。今の状況であれば、この 80 名は堅持したほうがよいのではないかと個人的には思うがどうか。

◇大阪市大の 2 部の出身者にも、相当な人物が出ているのも事実である。だけど、大阪市からの運営交付金の削減により、教員の定数削減をせねばならず、2 部教育まで手が回らなくなった。特に文系の教員数の減り方は非常に激しいので、2 部を廃止せざるを得なかった。2 部の存在意義というのは、あることはある。しかし統計的に調べてみると、2 部に入ってくる学生は必ずどこかの大学の 1 部を受けている。大阪市大の 2 部は学生にとって最後の砦で、すべり止めになっている。2 部を発足した戦後まもなくは、すごくレベルが高かった。勤労学生で、例えば高校で大阪市の職員の試験を受けて採用されて、もっと勉強したいので 2 部に来たという学生が非常に多かった。偏差値もそれなりに高かったが、この 20 年ぐらいで差がついてしまった。

◇今の経済状況を考えると、2 部の存在価値は以前より高まっていると思う。

◇確かに外大の 2 部の卒業生で優秀になられた方々というのも、だいぶ昔の人たちで、勤労学生である。しかし、これを簡単に無くすということは、止められたほうがよいと思う。

⇒大学) 確かに両面がある問題で、検討を続けることは仕方がないと思う。

◇推薦入試に全国枠を作られたが、全国枠で入ってきた学生は優秀なのか。

⇒大学) 推薦で応募できる基準を結構、高めに設定している。

⇒大学) 昨年からは全国枠を始めたが、TOEIC や TOEFL の点数の基準にあわせて、英語の試験も行っている。すると TOEIC スコアの非常に高い方でも落ちることがある。た

だ、非常にレベルの高い方に入学していただいているが、その方が入ってきてからどう伸びるかというのは別問題であるので、入ってきた方の成績等をフォローしていく必要があると思っている。結論もそれからで出るのはないかと考えている。今の段階では、一般的には優秀だろうが、これからどうなるかは今後のフォローにかかってくると思う。

◇基礎教育が 8 単位から 12 単位に、教養教育が 8 単位から 16 単位に増えているが、どこか減っているのか。

⇒大学) 専門科目を 28 単位から 20 単位に減らしている。

◇ここ数年間で外大がやられた非常に大きなことは、国際コミュニケーションコースの設置である。これは重要なことだと思う。

◇就職率がよいということは、とても特筆すべきことだと思う。どこかの企業に就職されて、そこでその人が活躍すると、また次もとなるので、それが好循環を生み出していると思う。そういう人たちの声を活用する方法が、あまりないのが残念である。企業でいう顧客の声が、どういうふうに活かされているのか知りたい。学生へのアンケートで設備を改善するなどされているが、こういうところがよかった、もう少しこういうところがあればよかったというフィードバックがあって、いろいろ改善していく、よいところはもっと伸ばす、アピールするといった活動があるとよいと思う。

⇒大学) 問題意識としては、我々もそういうことを思っている。特に卒業生との関係では、最近いろんな大学でホームカミングデーが実施されている。これも同窓会に働きかけざるを得ないが、我々としては若手の卒業生に大学に来てほしいと思っている。

◇大学がよかったかどうかは、何年か経って始めて分かることである。この教育がよかったかと卒業した時に聞かれてもなかなか分からない。難しいことだとは思いますが、それをもっと聞きたいということが全体を通してある。

◇就職内定率が非常に高いことはよいことだと思うが、卒業してすぐの段階ではよかったとしても、就職が長続きしない学生が非常に多いので、1 年経ってみるとフリーターになってしまっている学生もいるかもしれない。外大の場合はそうではないという状況まで分かれば、非常によいのではないか。卒業してからの情報を把握するのはなかなか難しいということであったが、例えば就職してから 1 年後も引き続き活躍していることを把握して、1 年経ってもよいということを何かいえないうか。

⇒大学) 卒業生の情報をどう管理するかというのは非常に難しい問題である。個人情報問題など、悩ましい部分である。ただ、キャリアサポートセンターの就職支援事業の中で、例えば外大の卒業生に連絡を取って、現役の学生の就職支援をしてもらえないかとお願いして、それを募って名簿化するといった活動をしている。就職する現役学生は自分の行きたい企業に先輩がいると、そこに話を聞きに行くとか、相談をすることが可能になってくる。そういう意味では、就職活動に非常にプラスになるだろうし、

その方が1年以上活躍しているという確認もできる。同窓会とは、今後、工夫をしながら連携を深めていく。これは同窓会になるのか、個人になるのか、形はいろいろあると思うが、そういった形で組織化していくことは非常に重要であると思っている。

◇私が今の大学でやろうとしているのは、学生が就職した会社にキャリアサポートセンターや就職支援センターからお礼というか、今後うちの学生をよろしく願いますという挨拶状を書いて、パイプを持っておく。すると、1年後にどうしていますかという電話一本で、「元気で頑張っています」という情報が得られる。そういう努力を職員が行うことによって、例えばこの大学はよく学生の面倒を見ている大学であるという印象もあわせて得られる。いろんな意味で、よい方法だと思っている。職員はしんどいが、そういう努力もしたほうがよい。

⇒大学) 外大でもキャリアサポートセンターを法人化と相前後して作って、充実してきており、全社までは無理だが、何社かとはそういう活動もやっている。

◇3年経てば30数%が離職しているという現状の中で、外大の卒業生は定着率が90%とか80%であると言えれば、ものすごい宣伝効果になるし、受験生も来る。学部卒業者の進路・就職状況のその他の89人というのは何なのか。

⇒大学) 就職できなかった人、公務員試験を改めて受けようという人、家事手伝いをしようという人、2部があるので現社会人である人で、こういう人たちを合わせて89人である。

## ○高度な研究・教育の推進

◇科研費の申請件数を増やしてほしい。申請件数が増えるというのは重要である。申請件数が増えたからといって、採択率が上がるわけではないかもしれないが、申請させるということは大事である。

⇒大学) これまで申請してなかった人に、新たに申請させるということか。

◇そうである。これは全く自由な競争資金なので、そこに加わろうとしないのはあまりよくない。落ちても全然構わない。申請件数を増やすことは大事だと思う。

◇海外の研究機関との提携については、特定の学術分野が目立つ。特化していいところをずっとやればよいが、もう少し他のところも競うように出てきてほしい。よくやっているところは優遇しないといけないと思うが、特定の学術分野に少し頼りすぎではないか。

⇒大学) 資料には成立したところを列挙しているが、提携に至らなかったケースもたくさんある。今後さらに努力していく。

◇授業科目の Semester 化については、2009年度から取り組みをされているが、Semester 化と9月入学は違う話なのか。東京大学では9月入学を検討しており、これは留学生を増やそうということで、どうすればその機会を多くできるかということの一つ

だと思うが、難しいのか。

⇒大学) 通年の制度と秋入学の中間にくるのがセメスター化であり、一步近づいている。

秋入学とは、同じ方向の動きをしている。しかし、必ずしもセメスター化したからといって、秋入学に直接つながるものではない。

◇秋卒業というのはあるのか。

⇒大学) 9月卒業というのはある。

◇大学院を修了された方は、研究者になられるのか、就職されるのか。

⇒大学) 現状は両方いる。

◇資料に書かないといけないことがいっぱいある。どれだけ大学院生がいて、博士論文をどれだけ出したか。そういうことが全然分からない。大学院の取り組みの遅れが甚だしい。課程博士はある程度出るが、これからは論文博士をどれだけ出すかということが大事である。大学のステータスもそこで決まる。論文博士というのを勘違いしているかもしれないが、誰でも取れる。それをどうして出さないのか、非常に不思議である。しかも神戸市の外大は他の外大と違って、法経商コースを持っている。それに当たる大学院として、国際関係学専攻とか文化交流専攻がある。国際関係学専攻から論文博士をどんどん出していったらよいと思う。

◇博士課程は何があるのか。

⇒大学) 文化交流専攻だけである。

◇博士(文化交流)なのか、博士(文学)なのか。( )の中をどう文部科学省に届けているかである。例えば、博士(国際関係)というものを一つ作って、どんどん学位を出せばよい。外大は学位をくれる大学にしないと辛いと思う。

⇒大学) 2期の課題は大学院ということで考えていきたい。

## ○地域貢献

◇学生のボランティア活動の推進については、せっかく外大なので、将来、国際的に通用する人材につながるようなボランティア、外大の方だからこそできるボランティアに力を入れて、機会を提供してほしい。

⇒大学) 資料には活動分野の拡大ということで、「通訳等の国際交流分野に限らず」と記載しているが、通訳ボランティアも現状でやっているし、地域のボランティアとして、神戸市西区の夏祭りにボランティアで学生が出ている。そのイベントの国際交流の夕べというセッションのところで学生や留学生が司会等をやっており、国際交流関係のことに比較的たくさん出ているのが現状である。

◇資料2の評価の推移を見ると、地域貢献の評価では、19年度、20年度はS評価だったものがA評価になったり、逆にA評価だったものがS評価になったものがある。小学校の英語教育支援は、小学校で23年度から英語教育が導入されたということで、非常

に力を入れているところであると思うし、外大は神戸市の外国語大学でもあるので、地域貢献については教育委員会と連携をすでにしていると思うが、より力を入れていただきたいところである。

イングリッシュサポーターは、外大の学生が23名いるということであるが、全体の学生数からすると、まだまだ少ないのではないか。それは、そもそも小学校側のニーズがそれほどないのか、それとも大学側が積極的に進めているといってもまだまだ十分でないのか、どちらの原因でこの数字になっているのか。もう少しこの地域貢献に力を入れていただきたいと思っている。

⇒大学) イングリッシュサポーターは、教育委員会に聞くと、全体で38名、そのうち23名が外大の学生である。

◇小学校の数からすると、それほど多い数ではないと思う。

⇒大学) 我々はたくさん出て行けるように努力しているが、受け入れ側の問題もある。

⇒大学) 制度がややこしい。スクールサポーターという制度があつて、それは小中学校の授業や学級活動の支援、指導補助のようなことをしているが、教育委員会に聞くと、全体が650名で、外大の学生が28名程度参加している。ただ、イングリッシュサポーターとなると、英語の活動ということで38名中、23名であり、そういう意味では外大の特色は出ていると思う。絶対数の話については、少し分からない部分はあるが、受け入れ側の問題もあるのではないか。

◇そこは教育委員会とよく話し合つて、小学校のほうに教育委員会からもっと強化しろと言ってもらうのがよい。

⇒事務局) 恐らく小学校のいろんなカリキュラムの中で、この時間はイングリッシュサポーターに来てもらつてやろうという、たぶんニーズとしてはそれぐらいだと思う。それをもっとやってほしいということであれば、もっとお願いしていると思う。カリキュラムの中で時間は決まっていると思う。

◇インターシップみたいなものだろう。将来、英語の先生になりたいという学生も含まれているのではないか。

⇒大学) 相当数、含まれている。

## ○国際交流

◇留学制度についての年間予算はどれぐらいなのか。

⇒大学) 1,100万円ほどである。

◇この制度は、提携している大学同士で向こうから3人来たいということならこちらからも3人行けて、航空運賃は自前であるが向こうでの滞在費は向こう持ちという制度なのか。

⇒大学) 派遣留学制度は2種類あり、1つが交換留学である。交換留学については、相互に授業料を減免している。外大の学生が向こうの大学に行った場合、向こうの授業料は減免されるが、向こうから学生が来たら、こちらも無料にするという制度である。

現在、アメリカのイースタン・ワシントン大学、カナダのメディシンハット大学、中国の天津外国語大学の3校だけがこういう制度になっている。それ以外に長期派遣留学があるが、本学と交流協定している大学に学生を派遣している。ただ、この場合は向こうの授業料が必要になってくる。

◇資料によると、海外留学は私費留学で行っている学生が圧倒的に多い。それは、短期が多いのか。

⇒大学) 外大の場合は、1年間行く学生が多い。

◇百数十人の学生が、親から支援してもらって1年間向こうに行くということか。

⇒大学) 外大を休学して行くので、外大の授業料負担はない。但し、向こうに行って授業料を払うというスタイルである。

◇何らかの形で支援してあげるとよいと思う。

⇒大学) 短期派遣留学については今まで制度がなかったが、外大に入った以上は海外に留学したいが経済的事情もあって長期はなかなか難しいという学生に、短期のメニューを用意して行っていただくという取り組みをしており、来年までに英語、イスパニア、ロシア、中国の4ヶ国語の全部を揃える予定である。

◇留学に対してお金をサポートするのと、受験生を増やすのとは、別に関係ないのか。

⇒大学) サポートすれば、受験生が増えるということはあるかもしれない。

◇そういうのは、一度、入学した人にアンケートを取ってみるのもよい。

⇒大学) 長期派遣留学としては40名弱が行ける予算を取っているが、選ぶ大学によって入学資格を取れないとか、英語力が不足して難しいというケースもある。

◇今のところは順調に受験生がいるのでよいが、もし受験生が減った場合、どうしたら受験生が増えるかを考えないといけなくなる。今、入ってきた人たちが、そういったことが魅力の大きなものになっているかどうかを大学として知っておかないといけない。

⇒大学) 我々としては、今のところ私費留学をしている学生を支援するよりも、交換留学を増やす形で取り組んでおり、現在3校であるが、徐々に増えていくと思う。

## ○柔軟で機動的な大学運営

◇職員は全員、神戸市の職員なのか。

⇒大学) 2011年度では、事務職員が全体で68名いるが、そのうち30名が神戸市からの派遣職員である。あとは固有職員が13名、有期の契約職員が25名である。

◇将来的には神戸市からの派遣職員を全員引きあげないと独立行政法人とはいえない。

⇒事務局) 今、順次、毎年何人か引き上げている。その代わり、採用を大学でもらっている。最終的にどこまでいつ頃いくのかということ、この計画に入れるかどうかはある。

◇他の公立大学では、県などから職員が来てなかなか戻らないらしい。しかし例えば大阪市大は例外的であるが、6年の間に全部、大阪市に返した。そして、新しく採る職員

は独自に試験して採用しており、法人の専任の職員と嘱託職員、アルバイトの 3 つの体制でやっている。また、嘱託職員のモチベーションを高めるため、試験により専任の職員へ配置換えできる可能性を残し、毎年希望者を募っている。また、法人の中で自由に職員の業績評価をできるので、係長の業績評価は課長がして、最後、理事長が全体のチェックをするという形で、給与に差をつけてモチベーションが高まるような工夫をしている。外大は派遣職員がまだ 30 名もいるので、固有の人事制度を作ることは難しいのか。

⇒事務局) そういうことはない。固有職員のものについては、外大で作ったらよい。

◇全員作らないと意味がない。

⇒事務局) 派遣職員はあくまでも、神戸市の職員である。

◇だから早く外大から神戸市に引き上げないといけない。

⇒大学) 現在、固有職員 13 名、派遣職員 30 名ということで、順次、固有職員に切り替えていきたいとは思っている。ただ、外大の事務局は 68 名で比較的小規模なので、固有職員が育て管理職を担えるようになるまで、相当長期になるだろうと思っている。

◇それは仕方がない。

⇒大学) 例えばキャリアサポートセンターでは民間経験のある 60 歳前後の方を採用しているが、今の段階で考えているのは、固有職員を育てて管理職に就けることを考えている。

◇総務などはよそから引っ張ってきたほうが、よほどしっかりしている。経理もそうである。

◇先ほど、なぜ論文博士をいっぱい出さないのかと言ったが、客員教授、特任教授を大学院に入れて、いち早く論文博士を出せるような体制にしてほしいと個人的には思うので、考えてほしい。

## ○その他

◇一度も地球化ということが出てこない。これから役に立つのは、地球化時代の国際人である。地球化と国際化は、異質なものであるということをきっちり認識して、地球化時代の国際的に活躍できる人というふうに、次の中期計画ではしてほしい。もしかしたら、学生の取り合いが世界レベルで行われるかもしれない。日本の学生が欧米に取られて、日本の大学がアジアの学生を取らないといけないという、漫画みたいなことが起こる可能性もある。だから地球化ということを、十分考えられたほうがよいと思う。